

2-12

軽費老人ホーム居住者の入居の経緯と適応過程

居住者自身の語り

主体的に生きる

軽費老人ホームA型

サンホーム

発表者：看護師 市川光代

共同研究者：池田清彦

所在地：東村山市富士見町2-7-40

TEL：042-391-3274

E-mail：sunhome-c@douen.jp

FAX：043-391-3366

URL：

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

施設種別…経費老人ホームA型（経過的）東村山市に位置し、特別養護老人ホームを併設。45年の歴史の中地域に根ざす施設を目指す。持てる力への支援～潤いのある生活を楽しむ～を運営目標に介護予防に主眼を置き支援を展開しております。

〈取り組んだ課題〉

軽費老人ホーム居住者の、入居の経緯から生活適応に至るまでのプロセスを、ホームで生活している居住者の視点にたって明らかにしていくことで、今後の生活支援についての示唆を得る。

〈具体的な取り組み〉

1. 方法
 - ・ 質的研究
 - ・ 半構造化インタビューを行い、録音し逐語録を作成して分析する。
 - ・ 文字データの分析は修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを活用
2. インタビューの内容
 - ・ 入居の動機
 - ・ 入居してみて実際はどうか（人間関係や生活面）
 - ・ 楽しみや生きがいはあるか。
 - ・ あなたにとって、このホームとは。
3. 研究協力者
 - ・ 研究目的を話し同意を得られた入居者で、入居して3～15年経過したホームの居住者15名

〈活動の成果と評価〉

1. 居住者の生活上の思いや悩みを居住者個々の語りの中から明らかにすることが出来、共有できたこと。
2. 居住者個々の語りを一般化し、分析することで理論的思考の学習が出来たこと。

〈今後の課題〉

社会情勢や環境により入居される方の抱える問題に変化があることを踏まえ、継続的な研究の中で今後の施設運営の方向性を考えていく。また、選ばれる施設として機能するための一助とする。

〈参考資料など〉

1. 木下康仁・小倉啓子共著 弘文堂 2007年
『ケア現場における心理臨床の質的研究』
—高齢者介護施設利用者の生活適応プロセス—
2. 木下康仁 著 『ライブ講義M-GTA』
—実践的質的研究法— 弘文堂 2007年
3. 竹中星郎・星 薫 編著『老年期の心理と病理』
放送大学教育振興 2002年

【メモ欄】